$\exists \mathtt{DSF} \exists \mathtt{DEST} - \mathbf{4}$

第23回日本検査血液学会学術集会

東京大学本郷キャンパス(東京都文京区)





多発性骨髄腫のフローサイトメトリー解析 Up to Date ~診断からMRD解析まで~

座長

正本 庸介 先生

東京大学医学部附属病院 血液・腫瘍内科

演者

西川 真子 先生

東京大学医学部附属病院 検査部

本学術集会は 現地+WEB配信でのハイブリッド開催 となっております。

現地参加の方はランチョンセミナーの事前予約が可能です。

詳細は学術集会ホームページをご確認ください。

第23回日本検査血液学会学術集会



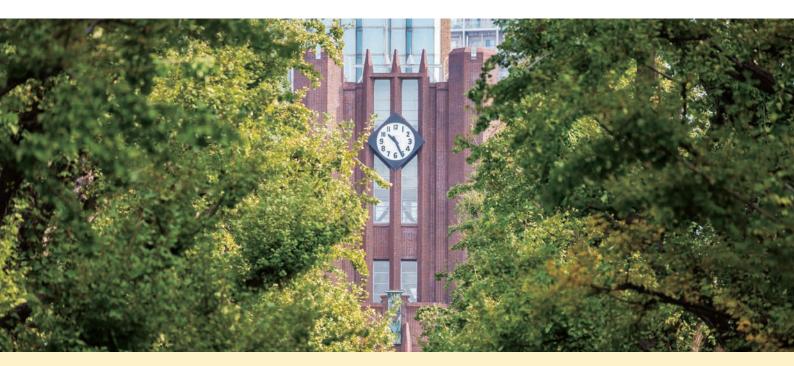
共催:第23回日本検査血液学会学術集会/ヤマサ醤油株式会社

$\overline{}$

第23回日本検査血液学会学術集会

東京大学本郷キャンパス(東京都文京区)





多発性骨髄腫のフローサイトメトリー解析Up to Date ~診断からMRD解析まで~

西川 真子 東京大学医学部附属病院 検査部

多発性骨髄腫は、形質細胞が単クローン性に増殖し、様々な病態や症状を引き起こす難治性造血器腫瘍である。全造血器腫瘍の約10%を占め、わが国では高齢化とともに年々増加傾向にある。骨髄中に増加する骨髄腫細胞を評価するために、形態検査、免疫組織化学染色、遺伝子・染色体検査とあわせてフローサイトメトリー(FCM)は必須の検査である。多発性骨髄腫のFCMにはCD38ゲーティングを用いる必要があるため、FCM解析を行う前に他の臨床検査所見や腫瘍細胞の形態学的特徴、細胞比率を把握し、適したゲーティング法を選択する必要がある。

多発性骨髄腫の新規治療薬として、骨髄腫細胞に高発現するCD38に対する抗体医薬が広く臨床応用されている。抗CD38抗体医薬投与後はFCMでのCD38検出が阻害される可能性がある。この対処法として、異なるエピトープを認識する抗CD38抗体や、CD38以外の骨髄腫細胞に特異的な抗原を認識する抗体が使用される。

また近年,多くの新規治療薬の登場により,多発性骨髄腫の治療成績は著しく向上している.微小残存病変(MRD)の判定基準であるFlow MRD-negativeは,1×10⁻⁵以上の検出感度を有するEuroFlow法あるいは検証されたこれに準ずる方法を用いたマルチカラー FCMにより,骨髄中に異常な表現型を示すモノクローナルな形質細胞が検出されないと定義されている.Flow MRD-negativeと予後との関連についての報告は多く,今後ますますマルチカラー FCMを用いたMRD評価に基づく治療戦略が普及していくことが予想される.本セミナーでは,当院の症例を紹介しながら,多発性骨髄腫の診断からMRD解析まで,フローサイトメトリー解析のポイントを解説する.